

## 横田、二国間航空機安全会議を開催 *Yokota Hosts Bilateral Aviation Safety*

April 15, 2021

374th Airlift Wing Public Affairs

第374空輸航空団と第353特殊作戦群の安全部は4月7日、警視庁航空隊と海上保安庁の関係者を横田基地に招き、基地の空中衝突回避(MACA: マカ)に関する運用手順を説明した。

「一言で一番シンプルな言い方をすると、MACAとは、航空機同士がぶつからないようにすること。航空機が衝突を回避するには、機体だけに頼るのでは不十分だ」と第374空輸航空団安全部長兼MACA調整担当のショーン・パワーズ中佐は述べた。

航空機の話はパイロットに焦点が当たりやすいが、他にも航空管制官、飛行場運用スタッフ、また必要な機器が正しく作動するように整備するチームなど、幅広い人のネットワークが存在する。地元のパイロットを招いて意見交換することで二国間で、横田の空兵のMACAの手順を共有し、準備態勢や関係強化を図ることができる。

「航空機が安全に飛行できなければ、有事に備えられない。空域は一人のパイロットや航空機一機だけのものではないので、空域を共有している仲間とは良い関係を築く必要がある」とパワーズ中佐は語った。

地元のパイロットたちは、新型コロナウイルス感染症予防対策をとりながら基地内に案内され、横田基地のミッション、地元の航空機、空域の状況についてのプレゼンテーションに耳を傾けた。また、空中衝突回避の技術や、安全に操縦するための飛行ホットスポットを確認し、最後に管制塔とレーダーコントロール施設を視察した。

「今回の訪問で、地元のパイロットたちは横田の管制官と直接話をする機会を持ち、管制官が航空機同士の間隔を維持し、空域を確実に管制する上での課題などを聞いた」と、第374空輸航空団安全部・MACA調整担当のクリストファー・ウルフ大尉は述べた。

空は広大なのだから心配ない、と思う人もいるかもしれないが、東京は約1,000万人の人口を抱え、世界で最も混雑している空域の一つだ。

パワーズ中佐は、「MACAを実践することがどれほど難しいか、人々は驚くかもしれない。我々が日々それを実行しているという事実は、それらの空兵と日本のカウンターパートのプロフェッショナルリズムの賜物である」と述べた。

大規模な災害や緊急事態が発生した場合には、共同で活動することが大いに想定されるため、こうした会議は互いの成功に欠かせない。

MACAに参加した第3管区海上保安本部羽田空港チーフパイロットの岸原司氏は、「非常に有意義で貴重な体験だった。横田基地の幅広い運用に対する見識を深め、米空軍の任務に対する意識の高さを感じることができた。今後も相互理解を深めるための交流を続けていきたい」と語った。

警視庁航空隊や海上保安庁などの他の飛行組織と直接的な関係を築くことで、同じ空域内で運用する全ての人のより安全な環境を構築することができる。



「MACAは、非常に重要な準備態勢の一端を担っている。MACAは当たり前のことだと決めつけてはならない」とパワーズ中佐は述べた。

そして、「1機でも犠牲にすることは決して許されず、事故はあってはならない」と続けた。